

**Mr. サトーのインド通信**

**サバイバル！**

桜も咲き乱れ、春満開の今日この頃。

増税も開始されてしまいましたが、駆け込み需要の反動はどうなるのでしょうか？ と・・・時事ネタから入ってみました。普段いる諸外国は概に 10%以上の消費税なのであまり違和感を覚えない私 サトーです。

さて先月は 3 カ国ほど色々回ってきました。その報告はおいおいまとめます。

今回は弊社の新人貿易部員にインドの地において、  
丁場・工場の状況を肌で感じてもらい経験を積んでもらうということで、  
インドに暫く放置しておりました。

慣れすぎてまったく新鮮さを感じない私ではなく・・・

新人の新鮮な目から見たインドの日常を是非・・・

**《 新人 オカザキのインド放浪記 おれは生き残った！！ 》**

今回研修の為インドの各丁場と工場を回り、インドの文化・生活を身をもって体験してきました。皆様にインドという国を少しでも理解して頂ければ幸いです。

はじまり、はじまり～

**【荒野に建つゲストハウス】**



ハイデラバード空港から車で 1 時間ほどの M-1H 丁場にて 4 日間研修をさせて頂き、そこからさらに 30 分程の丁場オーナーのゲストハウスで寝泊まりしました。基本的には問題なく過ごすことが出来ましたが、お風呂はお湯が出ないので毎回バケツに入れた水を温めて、水と混ぜながら桶で流していました。電気は一日中通っているわけではなく、朝の 9 時から夜中 2 時のみで、それも日によっては 1 時間遅れ、とインディアン

タイムが流れていました。

食事は、朝晩はオーナーが、お昼は丁場でお手伝いさんが、手作り料理を振る舞ってくれたのですが、激辛という言葉では足りないぐらい非常に辛く、口にもお腹にも刺激的でした・・・。

## 2日目のお昼を頂いた後・・・

あまりにお腹を壊しすぎて動けなくなってしまい、「トイレはどこか？」と尋ねるも、そんなものはないし、紙も「新聞紙しかない！」と言われましたが限界だったので草むらに隠れ・・・。

せっかくオーナーに作って頂いた料理を食べないのは心苦しかったのですが、その日の夜からは日本から持参していたカップラーメンや電子レンジで温めるご飯（電子レンジは無かったので湯煎でしたが）を食べて過ごしました。



創作料理も作ってみました！ **カレーお茶漬け！**

真似はしないほうがいいです・・・

決して美味しくはありませんでした・・・

そんなこともありながら丁場では毎日原石とにらめっこ、丁場職人の穴あけや原石整形の仕事も体験させていただきました。また、職人の寝泊まりする宿舎にも訪問させてもらい、暮らしぶりを肌で感じる事が出来ました。

・作業体験動画

<http://youtu.be/hoh076iCrs4>

[http://youtu.be/S\\_1P-ICD4ao](http://youtu.be/S_1P-ICD4ao)



職人達の宿舎。ここで自炊もしています。

## 【インド夜行列車】

チェンナイの製品加工工場にて検品をしていたところ、急遽 LK-01 の丁場を訪問させて頂くことになり、夜行列車でワランガルへ。インドの夜行列車は初めてで、やはり日本のものとは全く違いました。



(駅構内)



(ホーム)

切符にはクラス（寝台空調付き一等、座席空調無し二等など）が書いてありますが席番号が無く、自分のクラスの車両の入口に名前と席番号が書いた紙が貼られており、それを確認しなくてはなりません。切符のチェックはヨーロッパと一緒に列車内にて乗組員が一つ一つチェックするので、駅入口には荷物検査のゲートがあるだけで改札はありません。車内の設備ですが、私が乗った席は寝台空調付き二等だったのでベッド、カーテン、小さい照明、コンセント、毛布があり添乗員がシーツ、枕カバーを配りに来ます。他にも食事やチャイを車内販売しています。車両の両端にトイレがあり、禁煙なので喫煙スペースはありません（連結部分で隠れて吸っている乗客がいたので、私も便乗しましたが・・・）



一番驚いたことは乗客の多さです。座席車両には寝台を買うお金が無い、もしくは売り切れてしまって買えない人がおり、日本の満員電車のような状態で行き先によっては何十時間も乗らなくてはならないのです。お金はあるが売り切れてしまいベッド席が買えなかった人は、添乗員に賄賂を渡し空いているベッド席に移してもらうこともあるそうです。賄賂の相場はインド人が200ルピー(約340円)、外国人が500ルピー(約850円)。全乗客の切符をチェックする事は難しく、無賃乗車する人が多くトイレなどに隠れてやり過ごしているようです。最近は少ないようですが、少し前はニワトリやヤギを連れて乗車する人も多かったそうです。心の準備をして乗り込みましたが想像していたよりは快適で、乗り合わせた他の乗客と話をしながら楽しく過ごす事が出来ました。

インドの庶民生活を知る良い機会となりました。特に夜行列車は古臭さが逆に良い味を出しており、ノスタルジーな気分になることが出来ました。皆さんも機会あれば、体験してみるのも面白い発見があるかもしれません。

今回は息抜き編でした。それではまた来月。

SATO